

林業相談

芝生のつくり方について

問 家を建て小さい庭をつくりました。その中に芝生をつくりたいので、芝の種類とつくり方、あわせて管理手入についてお知らせ下さい (札幌市 K生)

答 芝生は地表を装飾する植物で、樹木の配植とあわせ庭にはなくてはならないものです。最近、和・洋庭園をとわず庭の空間を利用し緑を楽しむ家庭が多いので、造園の見地からお知らせします。

芝の種類

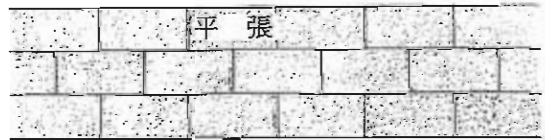
芝の種類には日本芝と西洋芝があり、それぞれの特徴を持っています。日本芝には、ノシバ、オニシバがあり、また西洋芝には、ケンタッキーブルーグラス、イタリアンライグラス、ケンタッキー31フェスクなどがあります。北海道の気候からみて、ケンタッキーブルーグラスがよくつかわれていますが、なかには上記の芝を好みの量にミックスして使用している人もおります。

芝生のつくり方

芝生のつくり方には^{ほりしぼ まきしぼ}張芝と播芝の2方法があります。いずれも床作りが基本ですので目的地をよくたがやし(深さ10~15cm)、土を細かく砕いてレーキで整地します。次に表土として砂質壤土とピートモス(泥炭まじりの水苔で市販されている)を半々にし、よく混ぜてから2~3cmの厚さに敷き、張芝のときはそのままにし、播芝のときはローラーで沈圧します。

播芝の方法

床面1㎡あたりに芝の種子20~30gを均一にまきつけ、種子がかくれる程度にフルイをつかって覆土します。覆土は砂質壤土とピートモスを半々にしたものがよく、乾燥を防ぐために荒ムシロで日覆をしてやります。灌水はムシロの上からおこなうと種子がかたよらず均一に生えるようになります。発芽したらムシロを取りのぞきますが乾燥しやすいので注意して下さい。



張芝の方法

張芝には平張りと目地張り(図-1)とがありますが、一般には目地張りがおこなわれます。これは芝の生育にも好ましいようです。また、床作りのときに凹凸のないようにしな

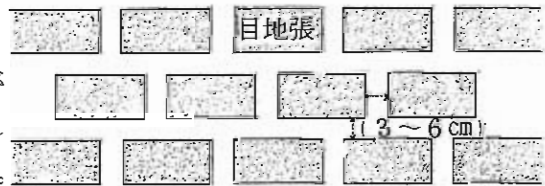


図-1 張芝の方法

いと、刈込みのとき苦勞するばかりか値のない芝生になるので気を配るようにして下さい。

施肥について

施肥には基肥と追肥があります。まず基肥ですが、芝生の場合是一回つくとかなりながいあいだそのままにしておくので基肥は充分にやして下さい。普通完熟堆肥を1㎡あたり1.8kgと配合肥料60gを入れます。また追肥は年3回位が適当ですが、芝の茎、葉に栄養を与えるのが目的ですから速効性の窒素質肥料を1㎡あたり20gを砂土とまぜて増量してやります。肥料に砂土をまぜてやると、根上りしないでいつも若々しい芝生を見ることができるので効果的です。

芝生をつくる時期

芝生をよく雑草のように思い、いつでもできると考えている人がおりますが、芝生をつくるのにもっともよい時期がありますので図-2をみてつくるようにして下さい。

芝生の管理手入法

芝生をつくるのですから芝以外のものはすべて雑草と考えて下さい。よくタンポポやクローバーなどが侵入しますが、みつけ次第抜きとることが大切です。また夏になると、とく

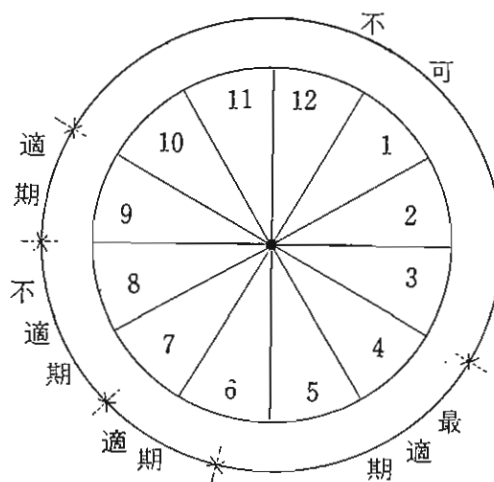


図-3 芝生の造成時期(月別)

に乾燥がつづくので朝早くか、夕方、灌水を「タツブリ」やると芝はながく丈夫に育ちます。日射のつよい日に灌水すると、やけて生理障害をおこしてしまうことがありますから注意して下さい。また秋に雨が多くなると根ぐされを起こすことがありますので、水はけをよくするようにして下さい。なお、病虫害にも気をつけて、大きな被害をうけてからではなく早目に発見して防除することが大切です。

(樹芸樹木科 芥 藤 品)